

V 教員像

教員の業務に関する印象や理想の姿を、子ども、保護者、学校評議員、教員自身に聞くことで、教員がおかれている状況と求められる教員像について把握することにした。

調査の結果、教員の業務の現状については、教員、保護者、学校評議員のいずれも、授業づくりや子どもと接することなどに費やす時間が不足していると回答している。

また、理想とする教員像については、教員と子どもは「わかりやすい授業」が最も割合が高く、保護者と学校評議員は「子どもの理解、適切な対処指導」、「子どもの意欲向上」に力のある教員を求める割合が高くなっている。

V-1 現在の教員についての印象

保護者、学校評議員に「現在の学校の教員についての印象」について聞いたところ、両者ともに約7割が、「子どもと接する時間が少ない」と回答している。

また、全体的な傾向として、学校評議員に比べ保護者の方が、教員の取り組み方に対して、否定的な回答の割合が高い。

具体的に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の合計で見ると、「子ども一人ひとりと接する時間が少ない」については、保護者 73.4%、学校評議員 67.6%となっており、他の項目と比べて高い割合となっている。

一方、「子どものことに熱心に取り組む教員が少ない」については、保護者 55.1%、学校評議員 33.6%と両者の意識に差がある。

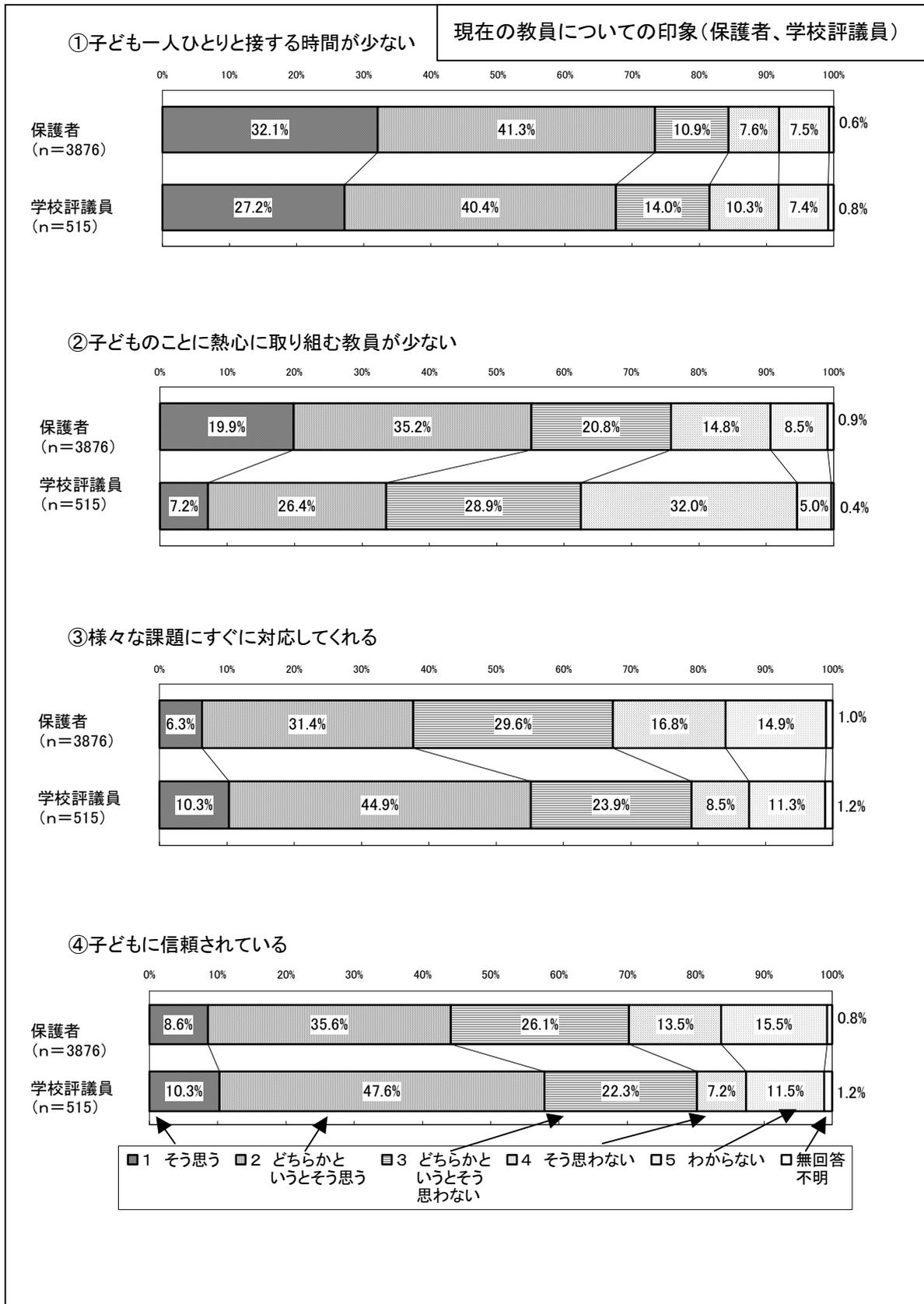
「授業などにいろいろな工夫をしている」についても、保護者 35.3%、学校評議員 65.9%と両者の意識の差が最も大きく、また、26.3%の保護者が「わからない」と回答している。

(表V-1、図V-1参照)

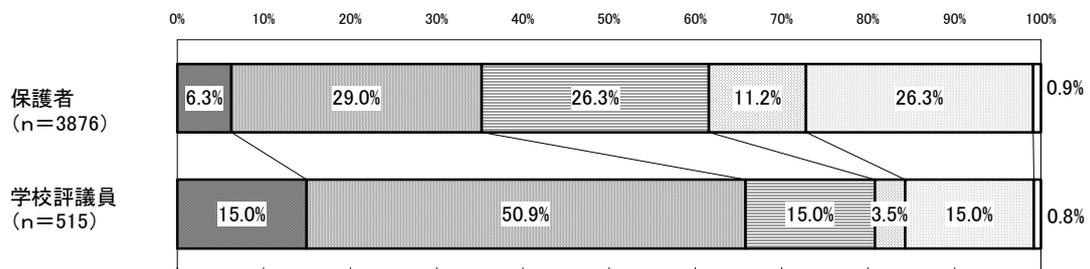
表V-1 現在の教員についての印象（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計の上位5項目）

	保護者	学校評議員
1位	子ども一人ひとりと接する時間が少ない (73.4%)	子ども一人ひとりと接する時間が少ない (67.6%)
2位	子どものことに熱心に取り組む教員が少ない (55.1%)	授業などにいろいろな工夫をしている (65.9%)
3位	子どもに信頼されている (44.2%)	子どもに信頼されている (57.9%)
4位	様々な課題にすぐに対応してくれる (37.7%)	家庭や地域との連携に積極的である (56.1%)
5位	授業などにいろいろな工夫をしている (35.3%)	様々な課題にすぐに対応してくれる (55.2%)

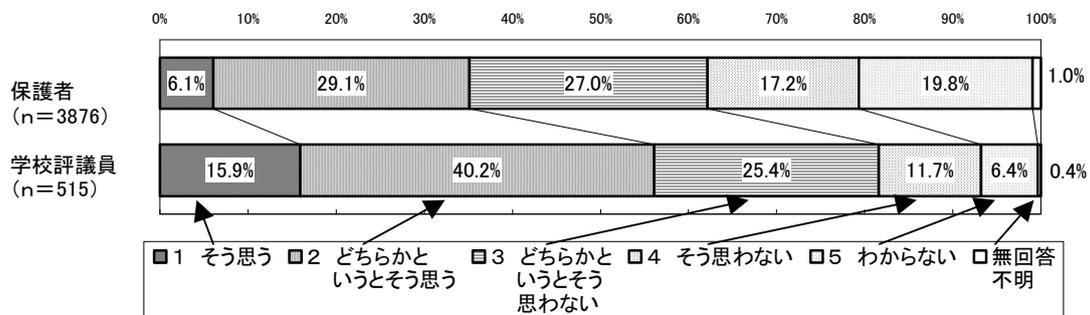
図V-1



⑤授業などにいろいろな工夫をしている



⑥家庭や地域との連携に積極的である



V-2 日々の業務で感じていること

教員に、「日々の業務で感じていること」について聞いたところ、小中高では8割以上、盲・ろう・養護学校でも7割近くが、「授業や教材研究等に費やす時間がとれなくなった」と回答している。

また、「教員間での仕事の分担や業務量の差がある」については、小学校より中学校、さらに高校の方が回答の割合は高くなっている。

「授業や教材研究等に費やす時間がとれなくなった」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、小学校 81.1%、中学校 87.0%、高校 87.6%、盲・ろう・養護学校 67.6%となっている。

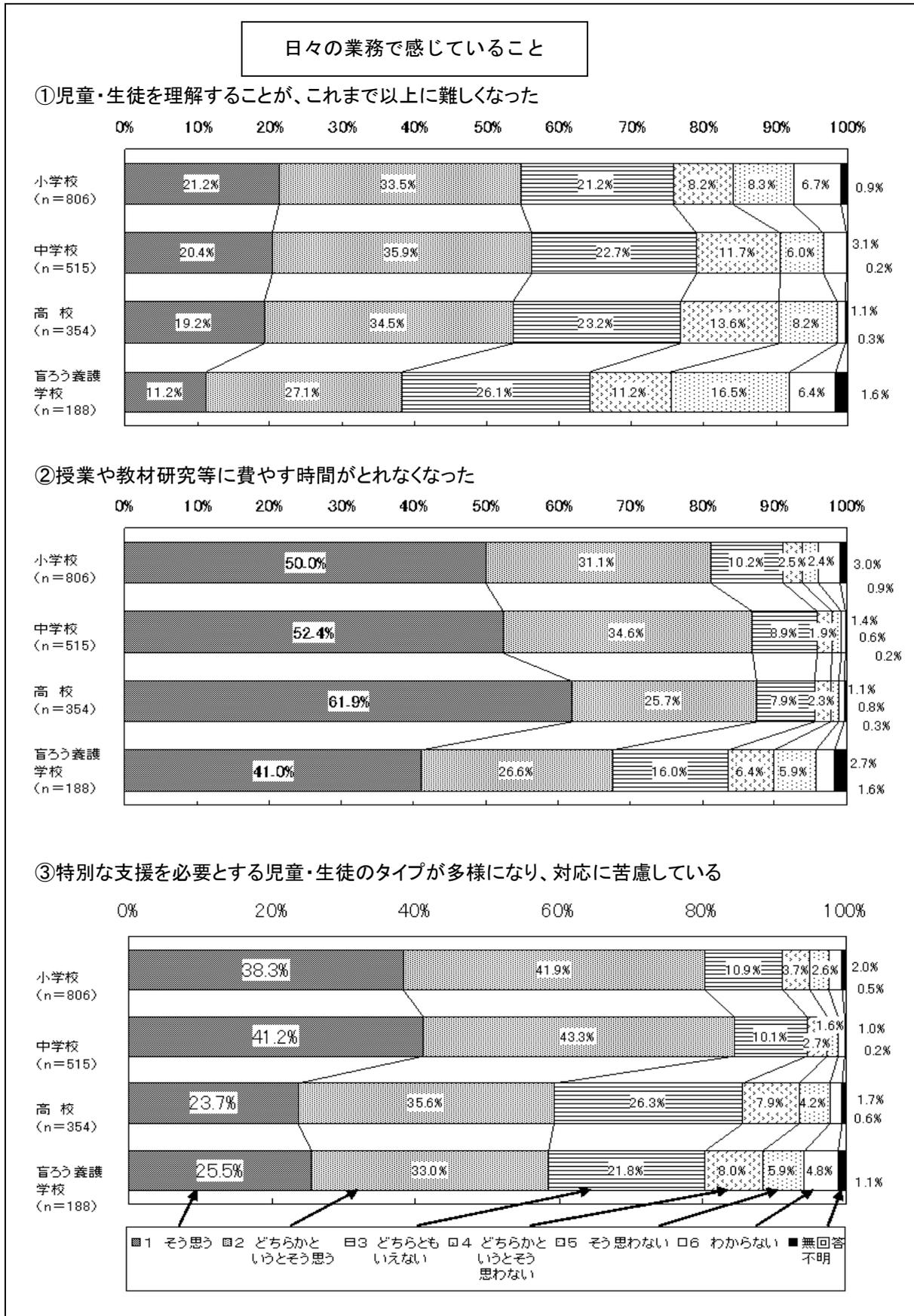
また、「特別な支援を必要とする児童・生徒のタイプが多様になり、対応に苦慮している」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、小学校 80.2%、中学校 84.5%、高校 59.3%、盲・ろう・養護学校 58.5%であり、小学校と中学校の教員の回答が他に比べ割合が高い。

さらに、「教員間の仕事の分担や業務量に差がある」については、小学校 59.4%、中学校 77.3%、高等学校 85.6%、盲・ろう・養護学校 70.2%であり、特に小学校と高校との割合の差が大きい。(表V-2、図V-2参照)

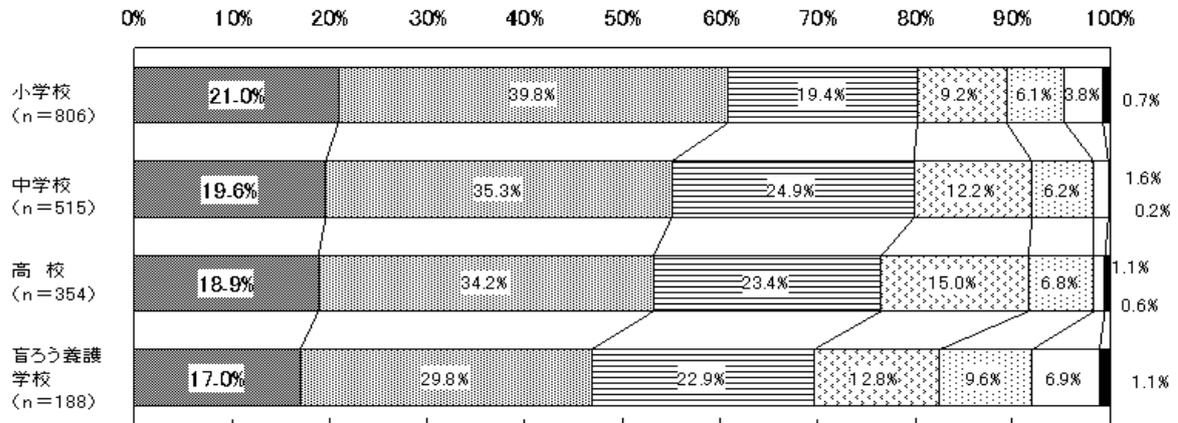
表V-2 日々の業務で感じていること（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計の上位5項目）

	教員（小）	教員（中）	教員（高）	教員（盲・ろう・養）
1位	授業や教材研究等に費やす時間がとれなくなった（81.1%）	授業や教材研究等に費やす時間がとれなくなった（87.0%）	授業や教材研究等に費やす時間がとれなくなった（87.6%）	教員間での仕事の分担や業務量に差がある（70.2%）
2位	特別な支援を必要とする児童・生徒のタイプが多様になり、対応に苦慮している（80.2%）	特別な支援を必要とする児童・生徒のタイプが多様になり対応に苦慮している（84.5%）	教員間での仕事の分担や業務量に差がある（85.6%）	授業や教材研究等に費やす時間がとれなくなった（67.6%）
3位	児童・生徒の問題行動に、どこまで対応するのか迷うことが多くなった（60.8%）	教員間での仕事の分担や業務量に差がある（77.3%）	特別な支援を必要とする児童・生徒のタイプが多様になり対応に苦慮している（59.3%）	特別な支援を必要とする児童・生徒のタイプが多様になり対応に苦慮している（58.5%）
4位	教員間での仕事の分担や業務量に差がある（59.4%）	児童・生徒を理解することがこれまで以上に難しくなった（56.3%）	児童・生徒を理解することがこれまで以上に難しくなった（53.7%）	児童・生徒の問題行動にどこまで対応するのか迷うことが多くなった（46.8%）
5位	児童・生徒を理解することがこれまで以上に難しくなった（54.7%）	児童・生徒の問題行動にどこまで対応するのか迷うことが多くなった（55.0%）	児童・生徒の問題行動にどこまで対応するのか迷うことが多くなった（53.1%）	人間関係での悩みが増えた（39.4%）

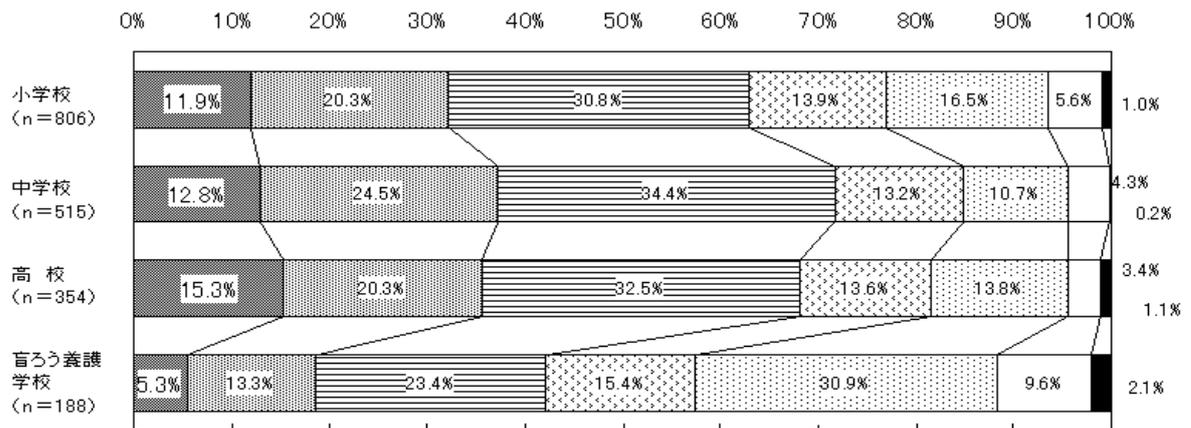
図V-2



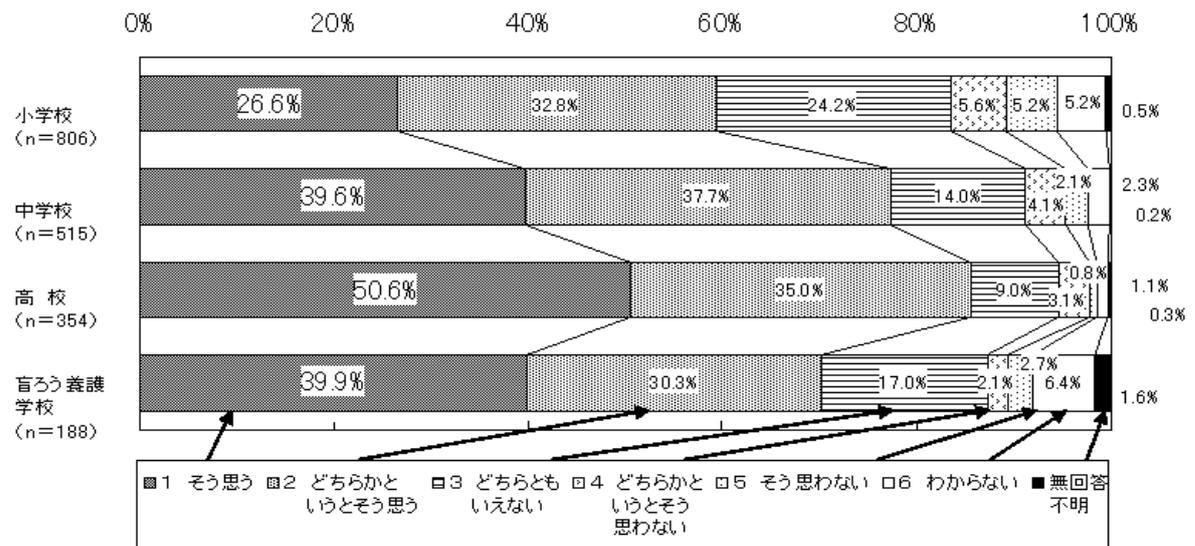
④児童・生徒の問題行動に、どこまで対応すべきか迷うことが多くなった



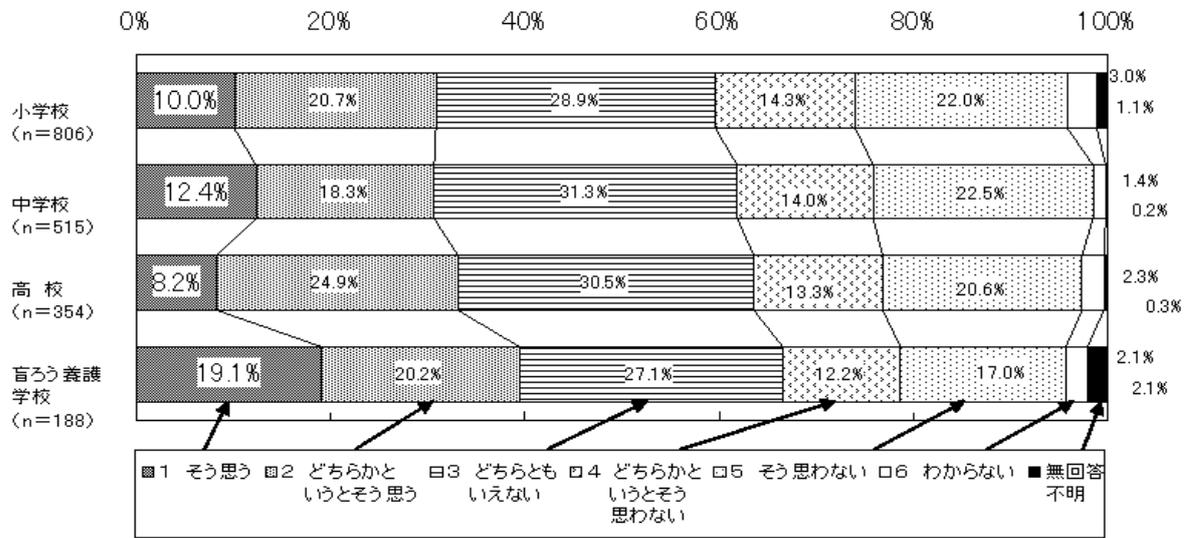
⑤家庭訪問や外部連携会議などへの対応で、学校を離れる回数が増えた



⑥教員間の仕事の分担や業務量に差がある



⑦人間関係での悩みが増えた



V-3 望ましい教員像

保護者、学校評議員に「望ましい教員像」について聞いたところ、「子どもをよく理解する教員」や「子どもの意欲を高める教員」を望む割合が、他の項目に比べて高くなっている。

「子どもをよく理解し、適切に対処、指導してくれる」(保護者 66.8%、学校評議員 64.9%)と、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる」(保護者 64.3%、学校評議員 64.7%)が両者共に上位を占めている。

また、3～5位にも、順位の差異はあるが、「わかりやすい授業をしてくれる」(保護者 46.1%、学校評議員 41.2%)や、「信頼され、尊敬される人格を持っている」(保護者 40.8%、学校評議員 49.7%)、さらに「時代の変化に対応した指導を実践してくれる」(保護者 14.6%、学校評議員 20.4%)となっており、それぞれの割合にも大きな変化はない。

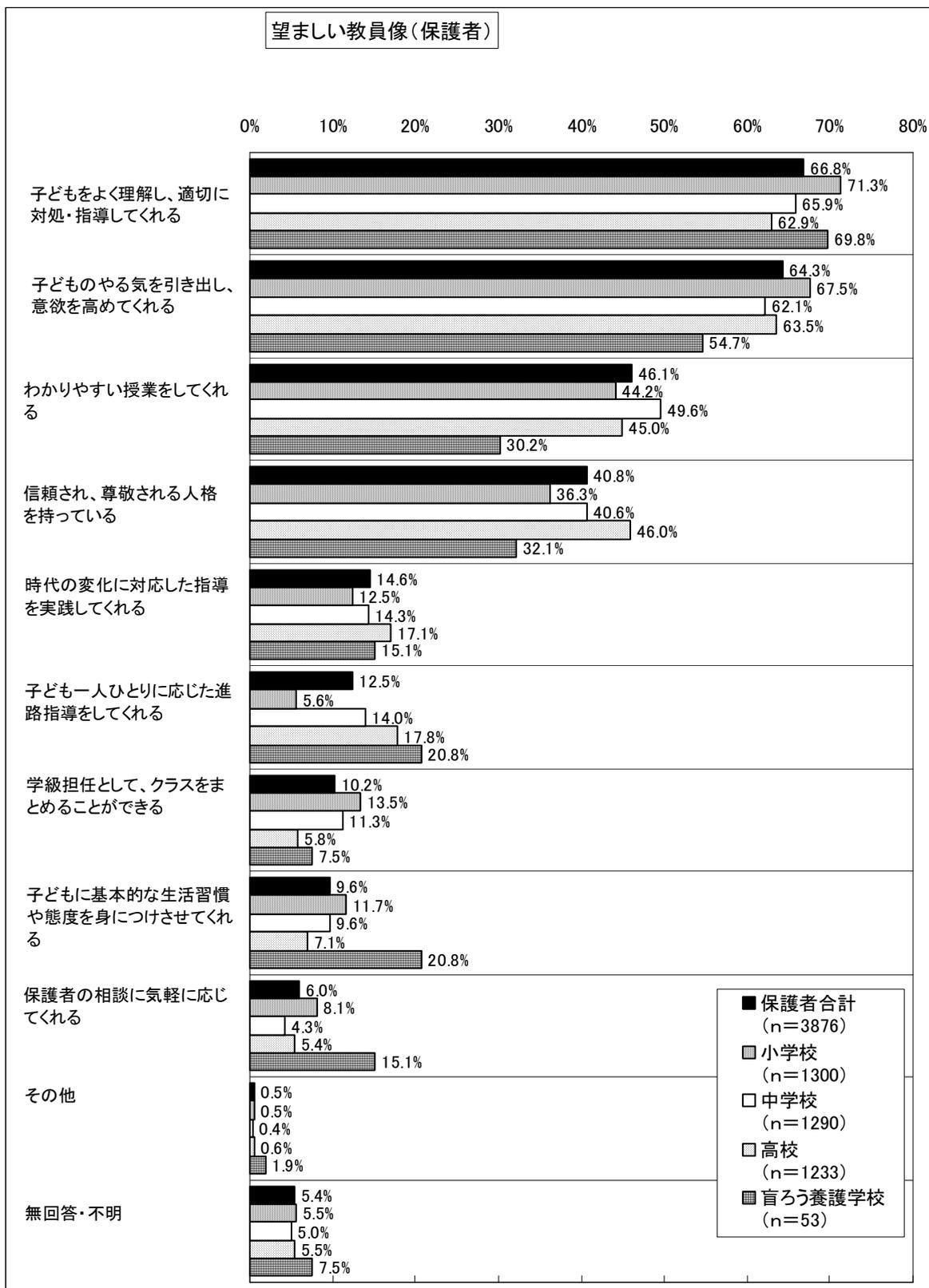
その一方で、「子どもに基本的な生活習慣や態度を身につけさせてくれる」は、保護者の9.6%に対して学校評議員は17.1%、「子ども一人ひとりに応じた進路指導をしてくれる」は、保護者の12.5%に対して学校評議員は5.8%であり、両者の意識に差がある。

(表V-3、図V-3-1～2参照)

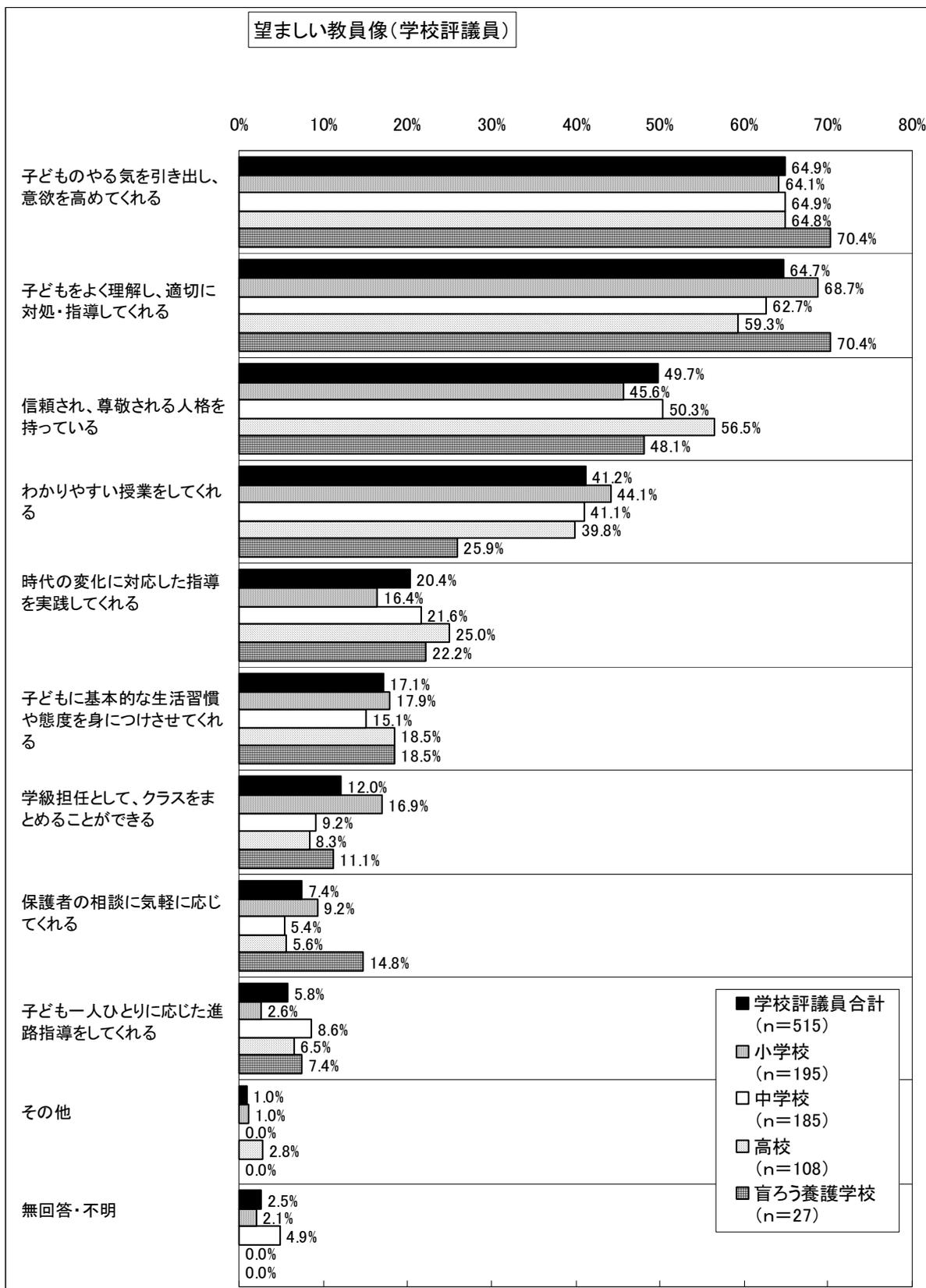
表V-3 望ましい教師像(上位5項目)

	保護者	学校評議員
1位	子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる(66.8%)	子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる(64.9%)
2位	子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる(64.3%)	子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる(64.7%)
3位	わかりやすい授業をしてくれる(46.1%)	信頼され、尊敬される人格を持っている(49.7%)
4位	信頼され、尊敬される人格を持っている(40.8%)	わかりやすい授業をしてくれる(41.2%)
5位	時代の変化に対応した指導を実践してくれる(14.6%)	時代の変化に対応した指導を実践してくれる(20.4%)

図V-3-1



図V-3-2



V-4 めざす教員像

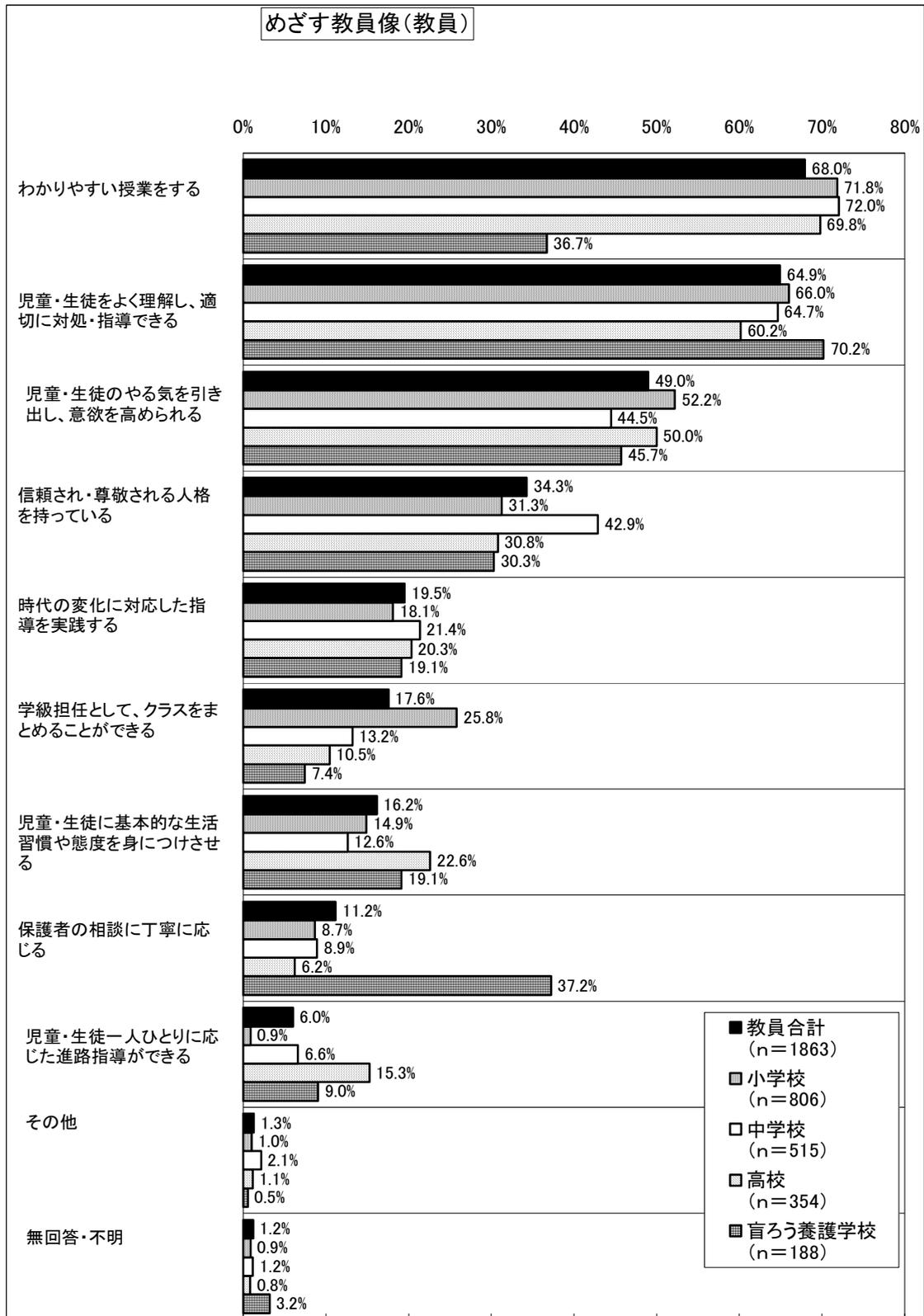
教員に「めざす教員像」について聞いたところ、全体として6割の教員が「わかりやすい授業をする」と回答している。

また、「子どもをよく理解する」や、「子どもの意欲を高める」についても、他の項目と比べて高い割合になっている。

「わかりやすい授業をする」が全体では68.0%（小学校71.8%、中学校72.0%、高等学校69.8%、盲・ろう・養護学校36.7%）で最も高い割合となっており、次いで、「児童・生徒をよく理解し、適切に対処・指導ができる」が全体では64.9%（小学校66.0%、中学校64.7%、高等学校60.2%、盲・ろう・養護学校70.2%）となっている。

学校段階ごとにみると、小学校では「学級担任として、クラスをまとめることができる」（25.8%）、中学校では「信頼され尊敬される人格を持っている」（42.9%）、高等学校では「児童・生徒一人ひとりに応じた進路指導ができる」（15.3%）、さらに盲・ろう・養護学校では「保護者の相談に丁寧に応じる」（37.2%）が、それぞれ他に比べて高い割合になっている。（図V-4参照）

図 V - 4



V-5 教わりたい先生

子どもに「教わりたい先生」について聞いたところ、いずれの学校段階においても、約7割が「わかりやすい授業をしてくれる」先生を望んでおり、他の項目に比べて突出している。

また、「自分たちのことをわかってくれる先生」や、「やる気をださせてくれる先生」を望む回答も上位を占めており、特に後者については、小中高と学校段階が上がるにつれて割合が高くなっている。

「わかりやすい授業をしてくれる」先生が、小学生 71.6%、中学生 68.1%、高校生 70.5%、盲・ろう・養護学校生 67.7%といずれにおいても最も高い割合になっている。

「自分たちのことをわかってくれる」先生（小学生 50.8%、中学生 44.6%、高校生 34.4%、盲・ろう・養護学校生 33.8%）、「やる気をださせ、意欲を高めてくれる」先生（小学生 35.9%、中学生 38.0%、高校生 42.5%）も高い割合となっている。

盲・ろう・養護学校生では、「自分の目標や手本になってくれる」先生（27.7%）や、「やさしくほめてくれる」先生（27.7%）を望む割合が高い。（表V-5、図V-5-1～2参照）

表V-5 教わりたい先生（上位5項目）

	小学生	中学生	高校生	盲・ろう・養護学校生
1位	わかりやすい授業をしてくれる (71.6%)	わかりやすい授業をしてくれる (68.1%)	わかりやすい授業をしてくれる (70.5%)	わかりやすい授業をしてくれる (67.7%)
2位	自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる (50.8%)	自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる (44.6%)	やる気をださせ、意欲を高めてくれる (42.5%)	自分たちのことをよくわかってくれる先生 (33.8%)
3位	やる気にさせてくれる (35.9%)	やる気をださせ、意欲を高めてくれる (38.0%)	自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる (34.4%)	自分の目標や手本になってくれる先生 やさしくほめてくれる先生 (27.7%)
4位	自分の目標や手本になってくれる (17.9%)	生徒と一緒に何でもやってくれる (37.6%)	生徒と一緒に何でもやってくれる (29.1%)	
5位	何でもいっしょになってやってくれる (17.8%)	将来や進路の相談にのってくれる (19.1%)	一人ひとりに応じた進路指導をしてくれる (20.5%)	何でもよく知っている先生 何でもいっしょになってやってくれる先生 (24.6%)

図 V-5-1

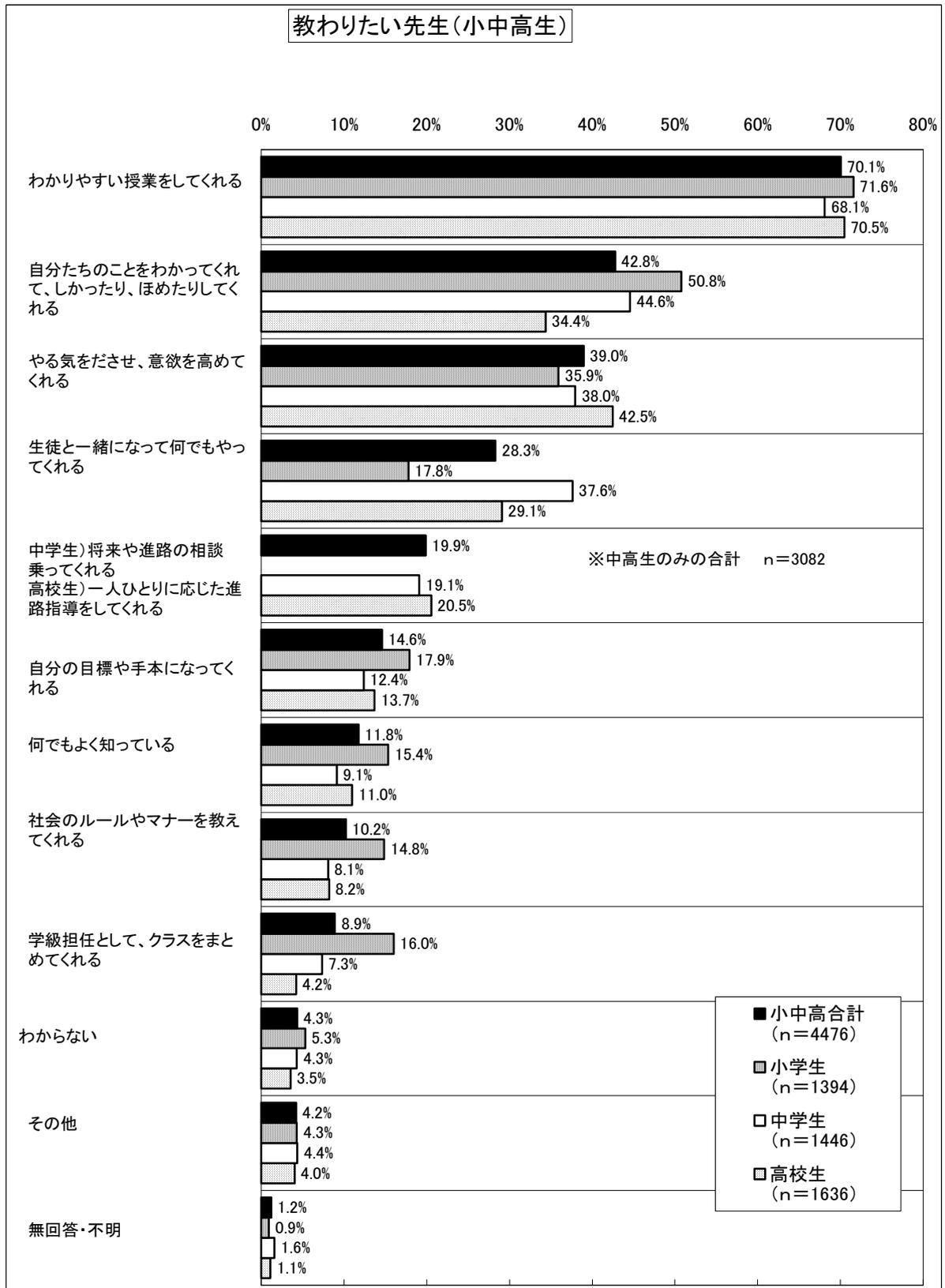


図 V-5-2

